

令和2年度 佃島小学校 自己評価報告書

学校名：中央区立佃島小学校

所在地：中央区佃2-3-1

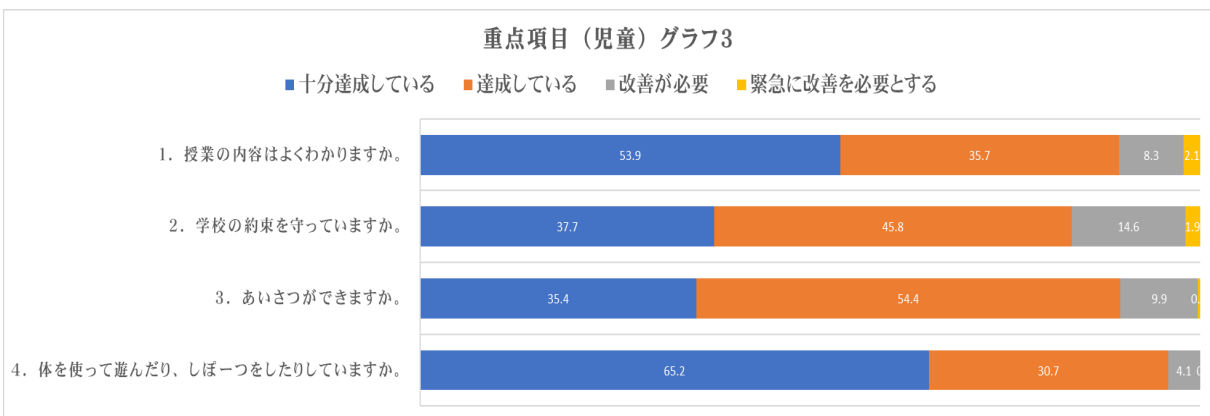
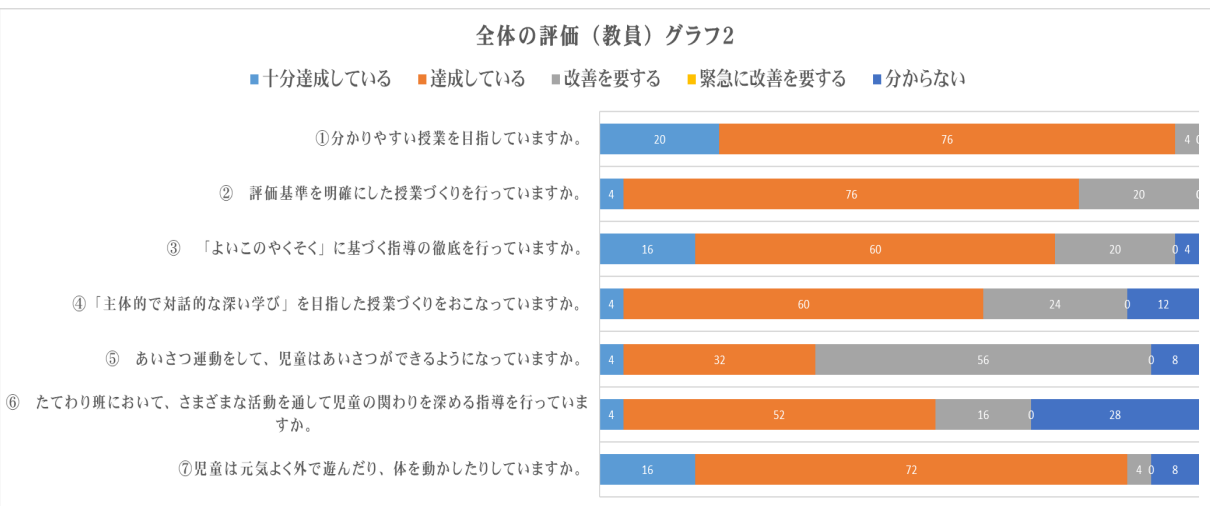
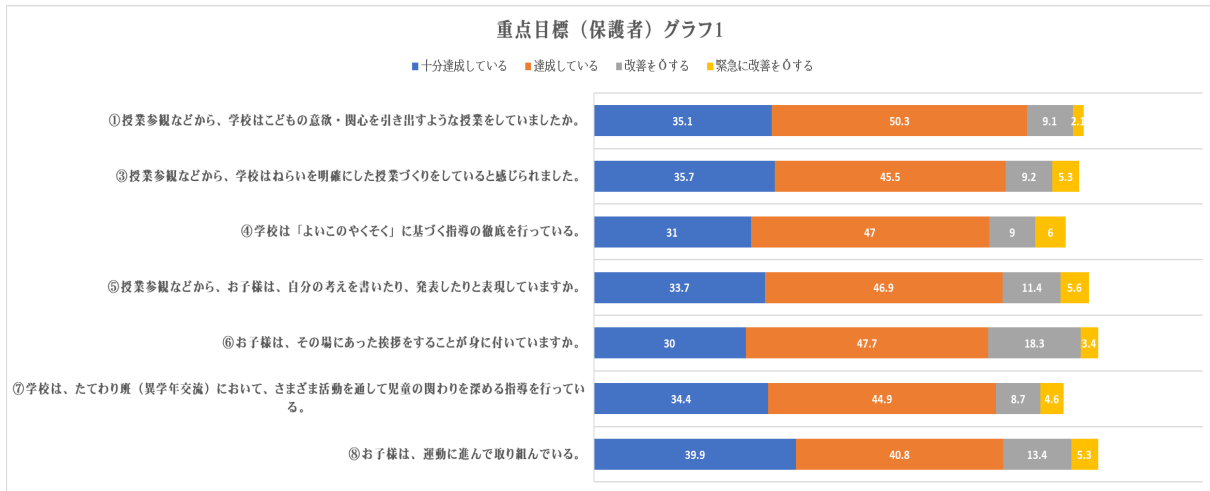
校長名：三木 滋

児童数 772人

学級数 25学級

教員数 29人

1 重点目標の達成状況及び取組状況



## 重点目標 1

保護者アンケートの「授業参観などから、学校はこどもの意欲・関心を引き出すような授業をしているか」という項目の肯定的な評価は、85.4%だった。また、「授業参観などから、学習のねらいを明確にした授業づくりをしているかと感じられますか」という項目の肯定的な評価は、81.2%だった。上記2項目については、「授業参観などを通して」という条件の設定であるが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、学校公開を1回しか実施していない。また、その学校公開日については、各学年1時間の授業参観ということもあり、評価をする判断材料が不足していると考えられる。

その中でも、保護者アンケートの全体の評価での質問では「学校は学習内容が分かりやすく授業を行っている」という項目の肯定的な評価は、89.8%「学校は児童に基礎学力が身に付くように教えている」という項目の肯定的な評価は、95.1%と高評価を得た。また、児童に行ったアンケートの「授業の内容はよくわかります」の肯定的な評価は89.6%と高い評価を得た。コロナ禍において、教員一人一人が試行錯誤を重ね、授業を行ってきた結果でもあるが、保護者・地域の方々からの信頼と期待の表れであると考えられる。さらに、保護者・地域の方々からの信頼と期待に応えるために、今後も引き続き、教員一人一人の授業力向上へ繋がるように、OJT研修の充実を図り、地域に必要とされる小学校を目指していく。

また、11月からタブレット端末を活用した教育活動が始まった。各学年でタブレット端末を活用した授業を積極的に進めてきた。次年度は、児童一人一人にタブレット端末が配布される。授業だけでなく、家庭との連絡等、幅広い活用が期待される。次年度に向けて、教員一人一人がタブレット端末を活用できるように、研修を重ねていく。

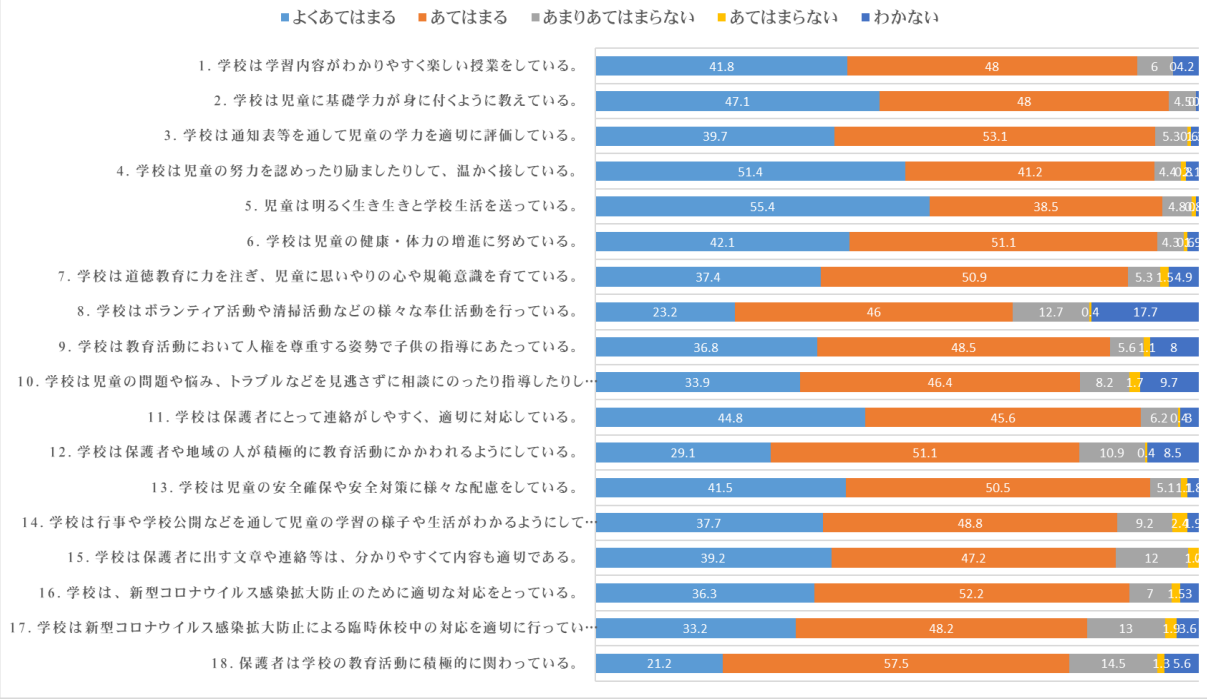
## 重点目標 2

保護者アンケートの重点項目の「学校はよいこのやくそくに基づく指導の徹底を行っている」という問いの肯定的な評価は、78.8%と前年度より低下した。本校では、「よいこのやくそく」の共通理解を基に、児童指導を行っているが、肯定的な評価につながらなかった。令和2年度は、挨拶や言葉遣い等のコロナ禍に影響されない基幹部分とマスクの着用、手洗い・消毒の励行など、コロナ禍での約束の2つが混在しており、新しい生活様式に対応した児童指導に対する、保護者・地域の方々への理解と協力を得るような情報発信が不足していた。新しい生活様式に対応した「よいこのやくそく」の見直しと、教員間の共通理解、そして保護者・地域の方々への理解・協力を得られるような情報発信を行っていく。

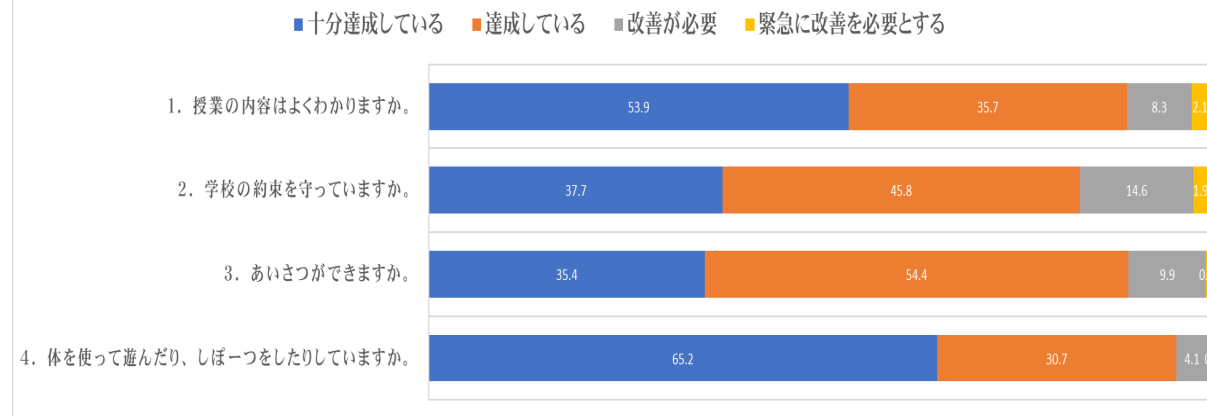
## 重点目標 3

令和2年度は、例年なら各学年で行う挨拶運動を新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、実施を見送り、代表委員会を中心とした挨拶運動を行った。保護者に実施したアンケート重点項目の「お子様は、その場にあったあいさつをすることが身に付いていますか」(グラフ1項目⑤)という問いの肯定的な評価は、78%だった。一方、教員に実施した重点項目のアンケート「あいさつ運動をして、児童はあいさつができるようになっていきますか」と問いの肯定的な評価は36%と評価が低く、保護者と教員でも評価が分かれた。これは、教員と保護者の児童が挨拶ができている・できないという視点の不一致が評価の違いに繋がっていると考えられる。まずは、この違いを埋めるために、挨拶ができるとはどういうことかという共通理解を教員間でもち、児童への指導のもと保護者・地域の方々へ伝えていくことが大切である。また、教員の児童に対する挨拶の評価が低いことは問題である。特に、挨拶に関する項目は、本校にとって毎年の課題である。本校の挨拶への取組には改善点が多くあることを示しており、学校全体で挨拶に関する項目を重点課題として、次年度の取組を考えていく。

### 全体の評価（保護者）グラフ4



### 重点項目（児童）グラフ5



## 2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

保護者アンケート全体の評価の「学校は児童に基礎学力が身に付くように教えている（グラフ4項目②）」（肯定的評価95.1%）、「学校は通知表等を通して児童の学力を適切に評価している（グラフ4項目③）」（肯定的評価92.8%）、「学校は児童の努力を認めたり励ましたりして、温かく接している（グラフ4項目④）」（92.6%）、「児童は明るく生き生きと学校生活を送っている（グラフ4項目⑤）」（93.9%）、「学校は児童の健康・体力の増進に努めている（グラフ4項目⑥）」（93.2%）、「学校は保護者にとって連絡がしやすく、適切に対応している（グラフ4項目⑩）」（90.4%）、「学校は児童の安全確保や安全対策に様々な配慮している（グラフ4項目⑬）」（92%）と18項目中、7項目が90%を超えた。また、本年は新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業や学校行事の中止など、保護者の方々にはご協

力を仰ぐことが多かった。「学校は新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休業中の対応を適切に行っている（グラフ4項目⑩）」の項目では、肯定的評価81.4%という評価を得た。次年度は、タブレット端末を家庭へ持ち帰り家庭学習や家庭との連絡等、学校と家庭が密接に対応できるようになる。新しい日常生活への対応としてタブレット端末の活用は今後の本校の教育活動に大きく寄与するものとする。

### 3 今後の改善方策

重点項目1の学力向上の授業に関する教員・児童・保護者の肯定的な評価は9割近くと高くなっている。また、次年度よりタブレット端末が児童一人一人に配布される。教育活動全体にタブレット端末の活用方法が次年度は大きな影響を与えるとする。今年度より、校内においてICT研修を行っているが、次年度も継続をして続けていきたい。一方、タブレット端末の活用は、学習面だけでなく保護者との連絡等の使用も考えられる。タブレット端末の活用した情報発信も今後の課題となると考える。

\* 3月に各学校のホームページで公表していきます。